

教科等の目標の系統性や内容の関連性を踏まえた生活単元学習

～「学びの履歴」を活用した授業実践～

佐賀県立中原特別支援学校 教諭 田川 桂

Keyword：生活単元学習、読み聞かせ、お話遊び

I はじめに

1. はじめに

本校は、知的障害、肢体不自由、病弱の3障害種を併置している。小学部は、知的障害通常/重複の学級、肢体不自由通常/重複の学級、病弱通常/重複の学級が合わせて12学級あり、計36名が在籍している。

本校では令和元年度に、学習指導要領が示す内容を偏りなく、広くバランスよく取り扱うことを目指し、各教科の目標と内容を一覧できる「学びの履歴」を作成した。具体的には、これまで取り扱った学習内容をチェックすることで、履修状況が一目で分かるようになっている。「学びの履歴」は、個別の指導計画や授業を考える上で活用している。

2. 単元設定の理由

本単元でも、各児童の「学びの履歴」を見ながら今まで取り扱っていない学習内容（今回は国語科と音楽科の内容）を選定し、児童の興味・関心を考慮しながら授業計画を立てた。

表1 「学びの履歴」から選定した学習内容(B児の場合)

	国語科	音楽科
B児	[知・技] ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 ・遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 [思・判・表] ・身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。	[知・技] ・表現する音や音楽に気付くこと。 ・音や音楽を感じて体を動かす技能 [思・判・表] ・音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。 [共通事項] ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること。

選定した学習内容を基に、学習活動を設定し、各教科の単元目標を設定した。

表2 単元目標(国語科 小1段階)

知識及び技能	・絵本やパネルシアターに出てくる言葉が分かる。 ・パネルシアターなどとおして、擬態語や言葉のリズムなどを楽しむ。
思考力、判断力、表現力等	・教師の話や読み聞かせに注目したり、返事をしたりする。 ・絵本などを見て、身近なものに気付き、視線を向けたり、指差しをしたりする。
学びに向かう力、人間性等	・応答遊びとおして、相手に伝えるように食べ物、の名前を言ったり、呼び掛けられた食べ物を探そう

としたりする。

表3 単元目標(音楽科 小1段階)

知識及び技能	・聴こえてくる音楽に気付き、手足を動かしたり、声を出したりする。
思考力、判断力、表現力等	・自分なりの表し方で、手足を動かしたり、声を出したりする。
学びに向かう力、人間性等	・教師と関わりながら声を出したり、手足や全身を動かそうとしたりする。

II 児童の実態

1. 児童について

本学習グループは、病弱重複障害学級2年生1名、知的障害通常学級の2年生2名の計3名で構成されている。

昨年度から絵本の読み聞かせを聞いたり、絵本を読んだりする経験を重ねており、毎日の帰りの会での読み聞かせを楽しみにしている。また、朝の会や音楽の時間などで音楽が流れると自然と笑顔になったり、歌詞の一部を声に出したり、電子黒板から流れる映像の動きを模倣したりする姿が見られる。

日常生活においては、自分の名前や普段よく聞く言葉は理解しており、発語が増えてきた児童もいる。どの児童も教師と関わることは好きであるが、関わりたいという自分の思いを言葉で伝えることが難しい児童もいる。教師の問い掛けに答えることは難しく、質問されたことをそのまま繰り返したり、内容が理解できないままに返事をしたりすることが多い。

2. 諸検査の結果

表4 諸検査の結果

	新版K式発達検査
A児	全領域 DQ32 認知・適応 DQ27 言語・社会 DQ37
B児	全領域 DQ36 認知・適応 DQ45 言語・社会 DQ22
C児	全領域 DQ46 認知・適応 DQ57 言語・社会 DQ38

III 指導の実践

1. 単元計画

表5 単元計画

次	時	学習活動
1	5	・「おべんとうバス」の読み聞かせ ・2年生のおべんとうバスを作ろう（パネルシアター、応答遊び） ・「バスにのって」の曲で音楽遊び

2	4	・「おべんとうバス」の読み聞かせ ・自分のお弁当を作ろう(応答遊び) ・「バスにのって」を歌いながら2年生バスで校舎内を一周
	1	・「おべんとうバス」の読み聞かせ ・自分のお弁当を作ろう(応答遊び) ・本物のお弁当を持ってバスに乗って中庭でピクニック

2. 授業の様子

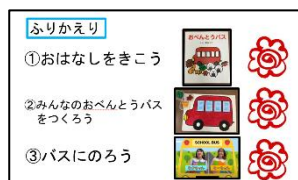
(1) 第1次において

児童の興味・関心の高い食べ物やバスが出てきて、呼び掛けや応答の場面が繰り返し出てくる「おべんとうバス」の大型絵本を使って読み聞かせを行った。言葉に節をつけて歌い、言葉の響きやリズムなど言葉のもつ楽しさに触れ、応答遊びを行いながら、食べ物の模型をパネルに貼ってみんなで一つのお弁当バスを完成させた。



お弁当バスを作った後は、「バスに乗って」の曲で、教師と一緒に楽しく声を出したり体を動かしたりした。

振り返りでは、電子黒板で他者（教師側の）評価だけを行っていたが、3日目から自己評価を行う場面を追加した。写真カードの中から一番楽しかった活動を選択した。



(2) 第2次において

第1次で名前を覚えた食べ物の模型を使って、応答遊びを行いながら自分のお弁当を作った。食べ物の模型は、前のボードに提示し、教師が示した食べ物の模型を児童が前に来て探し、自分のお弁当箱に入れた。



話の中に入り込んだようなワクワクする気持ちや楽しさを味わえるように、作ったお弁当を持って、手作りの2年生バスに乗り込んで歌を歌いながら校舎内を一周した。

最終日には本物のお弁当を持って校の中庭にピクニックに行くことで、最後まで期待感をもって活動で

きた。また、自分が作ったお弁当と本物のお弁当を見比べながらピクニックを楽しんだ。食べ物の名前を言いながら、「おべんとうバス」の話で登場する順番に食べる児童もいた。

(3) 評価の方法

毎時間授業の様子を撮影し、毎日担任団でビデオ視聴を行いながら評価を行った。評価計画を基に1時間ごとに設定した評価基準に沿って行った。

(4) 生活単元学習の時間以外での取り組み

午後の「図画工作科」の授業でも、生活単元学習で必要となる道具(第2次から使用のお弁当箱、バス、最終日に使用するレジャーシート)の制作を行った。

さらに学習を深めるために、国語の時間には、「おべんとうバス」に出てくる食べ物の名前を学習した児童もいた。

(5) 児童の変容

- ・絵本に出てくる食べ物の名前が分かるようになった。
- ・読み聞かせや応答遊びの中では、教師の問い掛けに、適切に答えられるようになった。
- ・音楽遊びでは、一緒に活動したい教師のところへ行き、声を出したり、体を動かしたりした。

(6) 課題

- ・第2次では、手作りのバスに乗る活動を設定したが、バスに乗って景色を見ることに意識が向いてしまい、第1次と比べて歌を歌ったり、体を動かしたりする姿が減ってしまった。
- ・児童が自身の学びを自覚できるように、学習の積み重ねを記録したファイルなどを準備し、振り返りの仕方を工夫する必要がある。

IV 成果と課題

1. 成果

- ・授業実践するに当たり、「学びの履歴」を活用したことで、児童に何を学んでほしいかが明確になり、そのための学習活動をどう展開するかが考えやすくなった。
- ・児童が学ぶ姿を具体化して目標や評価基準を設定することができた。
- ・本単元においてねらう内容が明確になったことで、本単元以外（国語科、図画工作科）の時間にも教科の目標や内容を意識して学習を行うことができた。

2. 課題

- ・年間指導計画を考える上で、集団として何を学んだかが分かるように、学習グループの「学びの履歴」も必要である。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領』
- ・真珠まりこ『おべんとうバス』、ひさかたチャイルド、2006

ピザ作りに取り組んだ生活単元学習の実践

～ 成功体験を増やす ～

長崎県島原市立三会小学校 教諭 志岐 慶郎

Keyword： 主体的、ピザ作り

I はじめに

本学級の児童は学習して学んだ知識や技能が断片的になりがちで、他の学習や日常生活で応用されにくかったり、成功経験や褒められる経験も少なかったりすることで、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないところがあり、様々な面で経験不足が感じられる。

小学校の特別支援学級として、在籍児童が地域の同学年の子どもたちと一緒に学校生活を送り、学ぶことを目指すのは当然であるが、児童の状況に応じた様々な学びに合わせて目標を設定している。

知的障害の特徴として、協力・共同して活動を行ったり、意思疎通を行ったりすることが苦手だったり、学習によって得た知識が断片的になり応用されにくかったり、成功体験が少なく主体的に取り組む意欲が育ちにくかったり、生活経験が不足しがちだったりすることがあげられる。

さらに、本学級の児童は他者と共同・協調する行動が苦手で、臨機応変な対応にも難しさを抱えている。そこで、児童が目標への意識や期待をもち、見通しをもって自ら主体的に学習に取り組む力を育てるために、各教科等を合わせた指導である生活単元学習を取り入れることとした。

II 児童の実態

6年生男子2名（A男、B男）と1年生男子1名（C男）が在籍している。

◇A男は、学習をする意欲はあるが、ゆったりと学習するタイプで、学習の理解に時間を要する。

○スポーツに関する本を見るのが好きで、サッカーに関する本を好む。

○他の児童と一緒に遊んだり活動したりできる。

△繰り上がり繰り下がり計算は苦手で、九九の暗唱は不完全。

△玩具貨幣を数えることができなかった。

△音読は苦手。

△図画工作科への苦手意識は強い。

△体を動かすことは好まない。

・文節区切りなどの支援を受けながら、主語と述語を対応させることができるようになった。

・具体物を10まで数唱して数えることができた。

・5タイル作りや5タイルを用いた指導で、繰り上

がり計算ができるようになってきた。

◇B男は、軽度の知的障害で自閉スペクトラム症の診断、療育手帳所持。

○九九の暗唱、簡単な繰り上がり繰り下がりの暗算はほぼできる。

○音読が得意で、4年までの漢字は読める。

○段ボールなどでの工作や絵を描くことが好き。

△学習意欲が乏しい。

△学習の場から出て行こうとする。

△友達との協調が苦手。

△多人数で遊べない。

・活動的な学習へは参加するようになった。

・教室を出ることが少なくなった。

・掃除や給食当番に参加するようになった。

◇C男は自閉症の特性が強く、発語によるコミュニケーションを十分に取ることができない。発問に対し、エコラリア（オウム返しすること）がある。軽度の知的障害。

○給食を残さず食べる。

○トイレスリッパなどを並べる。

○仮名文字を読むことができる。

○道路標識に興味がある。

○乗り物、果物、野菜、食べ物、動物などの名詞を多く知っている。

△会話は、二語文や三語文が多い。

△助詞が抜けることが多い。

△イントネーションや語尾を言わないことで、疑問文にしていた。

・助詞を付けて話すことが増えてきた。

・5までは数えずに分かるようになった。

III 指導の実際

(1) 年間の取組

1学期	1年生を迎えよう
	交流会に参加しよう
	野菜を育てよう
	買い物に行こう
	ピザを作ろう
2学期	おもちゃを作ろう
	買い物に行こう

	ケーキを作ろう
3学期	お別れ会を成功させよう

(2) 「ピザを作ろう」の学習計画

- 野菜を使って何を作るか話し合う(1時間)
- 材料や切り方を調べよう(1時間)
- ピザ作りをしよう(3時間)
- 振り返りをしよう(1時間)

(3) 児童の目標

- A男：見聞きたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えたり、簡単な語句や短い文を書いたりすることができる。《国語科、3段階、B書くこと ウ及びイ》
- B男：数量や図形の違いを理解し、算数科で学んだことのよさや楽しさを感じながら、学習や生活に活用しようとする態度を養う(必要な量を適切な道具を使い、正しく計り取ることができる)。《算数科、3段階、C測定 ウ》
- C男：体験したことなどについて、伝えたいことを考える。《国語科、2段階、A聞くこと・話すこと ウ》

(4) ピザ作り

①必要なものを準備する。

(材料や道具をそろえる)

6年生を中心に、準備した材料を確かめ、必要な道具を家庭科室の棚から調理台に出す。

《材料》

- ・専用粉 ・タマネギ ・ピーマン
- ・ナス ・トマト ・ベーコン
- ・ツナ缶 ・チーズ ・ケチャップ
- ・オリーブオイル

《道具》

- ・ボウル ・木べら ・のぼし棒
- ・計量カップ ・計量スプーン
- ・包丁 ・まな板 ・皿(大)
- ・皿(小) ・ピザカッター
- ・オーブン ・フライパン(念のため)

②生地を作る。

専用粉に書かれている作り方を参考に、手順を確認し、準備をする。

B男がボウルに計量カップで水100mlを計り取り、入れた。次に、専用粉(200g)を入れ、オリーブオイルを大さじ1杯(15ml)加えた。A男が中心になり木べらを使ってこね、途中、C男と交代した。B男は両手でボウルを



押さえる役割を担った。

A男が中心になり生地を完成させた。この生地のもとを三つに分けるように指示したが、支援が必要であった。

ラップをして生地を寝かせた。

③野菜を切る。

6年生が担当した。ピーマン、タマネギ、ナスは調べておいた切り方を確認しながら切った。

④ピザを準備する。

午後からの活動で、保護者にも参加してもらった。

親子一緒に、クッキングペーパーの上で生地を薄く丸く伸ばし整えた。そこにケチャップを塗り、好みの具材をトッピングした。

⑤オーブンで焼き、親子で試食する。

複数のオーブンで焼き、できあがり次第、試食した。

⑥片付けを行う。

洗剤で洗う、すすぐ、拭くなど、担当に分かれ、片付けをした。

(5) 振り返りを行う。

調理の次の日、ピザ作りのことを振り返る学習を行った。

C男は、「ピザつくった。たくさん食べた。おいしかった。」と話した。

A男とB男には、ピザ作りで覚えていることを箇条書きで書き出させ、それらを時間の経過で整理できるよう、個別に対応しながら順番付けまでした。

IV 成果と課題

最終場面は授業参観を兼ね親子での共同作業としたが、それまでは6年生の2人(A男とB男)が中心となり、何を作るか、どんな材料が必要かといった話し合いや調べ活動をした。また、必要な道具の準備、実際の活動を行った。

C男にとっては主体的に関わる場面が少なかったが、調理に参加し、「おいしかった。」と感想を述べることでできた。また、6年生がC男にできそうな活動や役割を分担しながら、手伝う場面も見られた。

「野菜を育てる」段階で、採れた野菜で作る物を考え、ピザを作ることを意識して育てた。野菜が採れ始めると、よりピザを作ろうとする気持ちが盛り上がり、主体的に材料や作り方を調べたり、活動をしたりすることができ、達成感を味わうことができた。

今回は授業参観と兼ねたこともあり、保護者の手伝いもあったが、子ども達だけでやり遂げる活動も計画していきたいと思う。

このような成功体験を次の活動へつなげ、子ども達の自信となるように支援していきたい。